

令和4年度 第1回名取市子ども読書活動推進協議会会議概要記録

○日時	令和5年3月29日(水) 午前10時
○場所	仙台法務局名取出張所2階 会議室4
○出席者(6名)	松本真奈美委員、長内理子委員、叶 由香委員、尾形理恵委員、砂金真美委員、板橋まゆみ委員、金野稔子委員、齋藤勇介委員、久松優子委員
○欠席者(4名)	萱場恒行委員
○事務局出席者	教育長 瀧澤信雄 教育部長 菊池 博幸 生涯学習課長 佐藤 徹也 生涯学習課長補佐 佐藤 浩 生涯学習課生涯学習・青少年係長 菊地栄一 図書館長 柴崎 悦子 図書館司書 加藤 孔敬 " 古瀬さおり
○傍聴人	なし

(会議概要)

開会に先立ち委嘱状の交付。名簿順に名前を読み上げ起立、一人ずつ委嘱状を交付した。

1 開 会

進行:佐藤補佐

2 挨拶**瀧澤教育長**

年度末の忙しい中お集まりいただき感謝する。新型コロナは、市内の学校も春休みに入り落ち着いている。卒業式も、ほぼ従来通りに近い形で実施できた。新学期は、できるだけ日常の学校生活が戻ればよいと思う。

本日は令和3年8月に策定した子ども読書活動推進計画についてその後の取り組み状況等について報告となるので、ご意見を頂戴したい。今日の資料にアンケートがあるが、それとは別のデータになるが、毎年全国一斉に文部科学省が全国学力学習状況調査を行っている。学力の数値だけが話題になるが、学習状況調査というのは数十項目を質問する形で、その中にあなたは読書が好きですかという質問がある。令和4年度の6年生の結果は、全国で、好き・だいたい好きが73.1%、宮城県では73.6%、名取市では76.3%で3ポイントほど上回っている。

中学生の結果は、全国で68.2%、宮城県では70.7%、名取市は73.5%で5ポイント近く上回っている。名取市は昔から学校での読書に力を入れて取り組んでいる。ボランティアの方や図書館の働きかけ、様々なところで子供たちの読書活動に関わる活動をしていただいている一つの成果だと感じている。来年度さらに充実した子ども読書活動が推進できるよう教育委員会として取り組んでいきたい。

現委員最初の会議となるので、事務局から自己紹介を実施。続いて、委員が名簿順に各自自己紹介。

会議成立の確認

名取市子ども読書活動推進協議会設置要綱第6条第2項により、委員過半数の出席を確認し会議成立を宣言。

会議公開の確認

名取市審議会等の会議の公開に関する要綱第2条の規定により、公開の対象となる旨を告げる。

傍聴席を設けていたが、本日の傍聴者はなし。非公開の議事は予定していないが、非開示情報が含まれる内容となった場合、会議に諮り決定していくことを告げた。

3 議 事

現委員の初回会議のため、会長及び副会長の決定まで教育長が仮議長となり進行。

瀧澤教育長

本会の設置要綱第5条に推進協議会の会長及び副会長は委員の中から互選により定めるということであるがいかがか。

事務局案の声あり。

事務局(菊地)

事務局案として、会長に松本委員、副会長に尾形委員にお願いしたい旨を提案。

瀧澤教育長

ただいま事務局案が示されたが、いかがか。

一同拍手により提案どおり決定。

事務局(佐藤補佐)

会長に松本真奈美委員、副会長に尾形理恵委員ということでお願いしたい。お二人から挨拶をいただきたい。

松本会長

会長を仰せつかり、微力ながら努めてまいりたい。日頃大学生と接して感じることは、これからの時代実体験だけで複雑な社会を生き抜いていくのは難しいのではないかと感じている。私自身の経験だけでは得られない多くを読書から学んできた。これから子供たちの活動が増えてくる。実体験はとても大事なことだが、それだけでは得られない、紙の読書によってでしか得られない価値があるのだろうと思う。そのことを子供たちにどうわかりやすく伝えていくか、私たち大人の見識も問われてくるのかと思う。よろしくお願ひしたい。

尾形副会長

松本会長のお手伝いができたらと思う。実生活の中から得たものやみなさんとのつながりを活かしてこの会に貢献したい。よろしくお願ひしたい。

佐藤補佐

要項第6条の規定により松本会長に議長をお願いしたい。

(1) 令和4年度名取市子ども読書活動に関するアンケート調査結果について

松本会長

(1) 令和4年度名取市子ども読書活動に関するアンケート調査結果について、事務局より説明をお願いしたい。

→資料1に基づき説明(菊地)

松本会長

事務局から説明があったが、委員から一言ずつご意見等をお願いしたい。

長内委員

本を読むのが好きだという生徒が多く、市が取り組んできた成果が表れているのかなと思う。宮城県の中でも名取市は早い段階から司書がおり、声がけをしているということでそういう結果が表れたと思う。ただ、中学生の不読率が上がっているということで、これを今後の課題として取り組んでいかなければならないと思う。今回は10月の読書について回答を求めているが、以前と比べて10月に学校の休みが多くなった。今年度より2期制が導入され秋休みが入っているのも、そういったところの影響もあるかと思う。

叶委員

スマホについて、中学生のアンケートにはあるが小学生にはないのか。小学生でもスマホを持っている子供がいると思うが、小学生に聞かなかった意図はあるのか。

事務局(菊地)

県の方では質問の項目に上がっているが、市では調査していない。これについて調査項目に加えるという検討を行っていない。確かに小学生の所有率が高くなってきている現状もあるので、ご意見を内部で精査し、次回のアンケートに反映できればと思う。

叶委員

私は紙派で紙が好きなので、ぜひ紙の本を読んでもほしいと思っているが、スマホで読む読み物も充実しているので、スマホで読む子供もいるのかなと思う。

尾形委員

子供たちの現状を考えた時に、本を手取る時間そのものがないのかとったりする。子供たちの読書にかかる時間がどのくらいあるのかが気になった。ネットでは検索して欲しい本にいくが、図書館や本屋さんに行くと予想しない本に出会えるので、本の魅力に入っていけると思う。子供たちに自分が今まで興味がなかった本との出会いの場を作れたらいいのかなとアンケートの結果全体をみて感じた。

砂金委員

読書が好きという割合が多く増えているので、取り組みの成果がでていていると感じた。本を読む理由として学校で読む時間があるのは大きいと思う。

板橋委員

読書が好きか嫌いかという質問で、好きの割合が自分が想像していたものより高いというところに驚いた。スマホやゲームの方が子どもたちの興味が強いイメージがあったので、読書に対してこれくらい好きだということに安心した。読まなかった理由として読みたい本がなかったからとあったが、たくさんいい本があるのに出会えてなかったところを想像して、その理由が残念だと感じた。

今野委員

名取市の読書率が全国平均より高かったということで、日頃子供たちの読書する姿を見ると本好きの子供が多いなと感じた。うちのセンターの子供たちをみると、好き嫌いの個人差はすごく大きいと思った。児童センターでも読み聞かせをやったり、職員と一対一で読んだりする場面があるが、アンケートは基本にお子さんが一人で読むことに対しての結果だと思うが、子どもの一日の流れを考えた中で、職員と一緒に読みあったり、大勢の子どもを対象に職員が読み聞かせをする場面があり、それは考慮されていないのか。

事務局(菊地)

そのような機会も読書の一つでもあるが、今回小学生や中学生を対象としたアンケートの取り方としては、個人で自発的という捉えとなっているので読み聞かせはこの数値に含まれてきていないが、おっしゃる通り、各施設で実施される読み聞かせなども読書の一つであると捉えている。

齋藤委員

皆さんが仰る通り、名取市の取り組みが全国平均県平均を上回ったものに繋がったと思う。朝読書や各学校への図書館教諭の配置が充実していることで本に触れる機会がある名取市の子は恵まれているなど実感がある。そのうえで子供たちの生活スタイルが大きく変わってきている点は、アンケートから見られると思う。実際に読みたい本がないという部分もそこを選ぶ時間がどれだけあるのかというと、中学生以上になると、そこに夜遅くまで部活があったり、勉強や定期考査があるとそちらを優先したときの限られた時間の中、ピンポイントで本を選ぶとかゆったりとした時間を過ごせるような環境だったり、生活環境自体を見直すような視点も必要かと思っていた。アンケートでは中学生のスマホを使用する時間数を質問に入れましたが、小学生を含めるとこの時間が伸びると思う。小学生の放課後の時間帯は外での遊びが制限されている中で、ゲームやユーチューブ動画で時間をつぶす共働き世帯が多いので、留守番をそのように過ごす家庭が増えていることを考えると、中高生よりも圧倒的にスマホやパソコン動画に触れる機会が圧倒的に増えていると感じている。携帯電話、タブレット、パソコンなどを含むになっているが、今は色々な媒介でユーチューブがみられる。スマホ以外の時間を総合すると、かなりの時間数になるかと思う。電子書籍などについてもピンポイントでみたいものをすぐにみられるから電子書籍の割合も増えてくるのだと思う。中学生が親に買ってもらうというところがあるが、そこで興味のあるものを探して、本当に欲しいものは親に買ってもらって自分のものにしていくというプラスの面での使い方があったりするので、今の時代を捉えながら紙媒体の方に触れるような機会にもっていけるような、こちらの視点の変化というところも必要になってくるのではと感じている。

久松委員

本を読む理由として、学校の朝読書が大きく締めているのと、その時間だけでも本に触れる機会があるというのはいいことだと感じた。乳幼児期からの本に触れる機会がもっと増えていくように、親御さんに対して案内していけば本に触れる機会が増えてくると感じた。

松本会長

名取市の取組の成果のすばらしさ、学校の朝読書の貢献の度合いも委員皆様の意見からもあらためて確認させられた。一方で、本に出会う時間と場所といったことが課題であること、子供たちのライフスタイルの変化に合わせて私たち大人の方も見方を変えていくべきであることなど、貴重なご意見をいただいた。アンケートの取り方についての提言もいただき、それは今後に反映されればよろしいと思う。一通り意見をいただいたが、他にいかがか。

瀧澤教育長

貴重なご意見に感謝する。小学生のスマホタブレットの使用についてはご指摘の通りであるので、今後検討していきたい。何人かの委員さんからスマホの活用読書の関係についてご意見をいただいた。ご承知かと思うが、コロナの中で、小中学生1人1台ずつタブレット端末を持っている。その中で危惧しているのは、ICTを活用する力は子供には必須である。ICTのメリットデメリットをきちんと踏まえないと怖いと思うことがある。教科書がデジタル教科書で出てきているが、私は紙をなくすのはとても危険だと思う。子供たちの生活にタブレットなどどのくらい入ってきているのかという実態は、きちんと把握しておかなければならないと思う。

叶委員

アンケートと関係ないと思ったので発言しなかったが、児童文学についての講演があったが、どの講演を聞いても9歳の壁というのがあって、小学1～3年生までは学校の図書館を利用するが、4年生になるとぐっと減るそうである。自分で読書するということに移行できない原因の一つとして、絵本から児童文学に移行する間の本が不足している状態でそれを絵本がカバーしている状態だと言っていた。図書館の方に伺うが、絵本や児童文学の貸出しの状態等はどのようになっているか。

柴崎館長

図書館の貸出状況を見ると、絵本の貸出はかなり増えている。それは子供たちが借りるというよりも親の方が借りて家で読むのだろうと思う。絵本から物語の世界につないでいくか、出版の状況もある、簡単なマンガチックな児童の読み物がかなりあって、そういうものにしか手が伸びない子供たちが多かったように思う。優れた読み物が出版されていない状況もあるが、長い間読み継がれている良い本があるので、それをどうやって子供たちに伝えていくかというのが私たち図書館員、大人の役目だと考えて、良い本が入ったら逃さず図書館の方へ入れる努力を続けていかなければならないと思う。

瀧澤教育長

3～4年生になると授業時間が増えクラブ活動が入る。先程の話で絵本から物語に移行するような文学作品を学校図書館で選奨しているかということも学校と話題にしたい。小学校の国語の教科書には必ずそれぞれの学年で、3、4点物語文が載っている。その中でもっと色々なものを読んでみようという意欲を持つような国語の授業行っているか、そういう観点からも考えていかなければならないと思っている。

叶委員

先生によって、読書の取組が違うと力を入れた学級とそうでない学級では学年が上がったときに聞く力というのが随分変わるのではないかと感じる。学校で統一しないのか、不公平にならないように工夫をしているのか。

瀧澤教育長

基本的なところは統一する。指導する内容は学習指導要領で決められている。学年によって学年主任が中心になって基本的な線は揃えるが、細部にわたって担任の個性によると思う。保護者の立場でご意見いただくのは一向にかまわないと思う。多少、担任の個性、特性を生かした学級経営というものであってもいいかなという思いもある。

松本会長

ご提言感謝申し上げます。その他いかがか。

長内委員

朝読書の件でよろしいか。中学校ではなるべく各学級でズレがないように学年で統一して取り組んでいる。中学生なので基本は自分の読みたい本を自分で読む、感想等を求めないという朝の読書の原則に基づいてやっているの、特にこういう方向でということはやっていない。各クラスには学級文庫を図書委員に管理させて用意している。中学校では均等になるよう心配りをしている。

松本会長

他にいかがか。良ければ、議事(1)は報告いただいたとおり承認としたい。

次に、(2)名取市子ども読書活動推進計画に関する取組状況についてお願いしたい。

(2)名取市子ども読書活動推進計画に関する取組状況について

資料2に基づき説明(菊地)

松本会長

この内容についてご質問ご意見、それぞれの現場での取り組み状況や日頃感じている課題などについてお話しいただきたい。

久松委員

COCOI'LL(ここいる)の方でも図書館や読み聞かせボランティアの方と連携したイベントをしていきたいと思っているが、そこが課題として持っていて図書館に足を運ぶことが地域によっては子供だけでは難しいと感じている。図書館でやっているイベントをもっと発信していけたらと感じた。今後色々な意見をみていながら対策を考えていきたい。

斎藤委員

今度の課題としては、子供たちが主体的・自主的に本に触れる、子供たちの余暇の放課後の時間帯に目を向けていけないと感じた。子供たちは忙しい毎日なので、学校で朝読書の時間を作ってもらい本が好きだとなっているが、選択肢が放課後の忙しい時間の中で優先順位をつけた時に、色々な好きなものの中で好きな読書が優先順位の中でどの位置にあるのか、限られた時間の中でいかにそこの中で選ばれるかという視点はあるかと思う。うちの児童館の取組の中で、あめっこ図書館というものを作っているが、自由選択であめを1個食べながら読書をしましょうと1時間くらい設けると、休憩にあめをなめながら読書に来たりする。その時間を楽しみにしている子もいる。読書と違った視点で子供たちを誘った取り組みも結果よかったと思う。本来は本を目的に来てもらいたいが、子供たちの環境を考えると、こちらの方で本に主体的に関われるような仕掛けづくりというのも大切だと思う。

金野委員

昨年度は長期の休みの期間に図書館から本を借りて環境を整えると、手を伸ばしてみてくれるのが良かった。今年は毎月一回ずつ借りてきている。読書の時間を取ってあげるのも大事だと感じているので、センターとしても日頃の活動を見直しながら、生活の中で読書の時間を取り入れていければいいのかなと感じた。

板橋委員

小中学生の読書に向けた時間の確保が課題というのがあげられているが、保育所にいる間はスマホやタブレットがない状況の中での保育である。スマホやタブレットに触れない貴重な時間にいる子供たちをお預かりしていると感じた。保育所での読み聞かせは、1日に3、4回は各クラス読み聞かせの時間は取

れているので、保育所にいる間だけでも絵本などに触れさせていって絵本が好きな子供たちを増やしていけたらと思った。

砂金委員

学校や図書館、保育所、児童センターで色々な取り組みをされているのを感じた。私は保健センターであるが、最初にお母さんがお子さんに読み聞かせる最初の時期に接している。発達段階によっては興味を示さない次期であったりするが、保護者に絵本の大切さを伝えていけたらと思う。スマホというと、保護者もスマホであやしたり、動画を見せたりというのが手っ取り早くスマホに子守りさせたりというのが増えてきているので、やはり親子でのふれあいとか絵本の読み聞かせなど大切にしてほしいと検診で伝えていけたらと思う。

叶委員

図書館でのおはなし会についてだが、各団体さんの個性があってバランスが取れていると思う。昨年の夏ぐらいからおはなし会の時間に合わせてきてくれる方がいて、5年目を迎えてやっと定着してきて嬉しく思う。

長内委員

私は普段中学生と接しているが、幼少期や小学校の取組があって今の中学生がいると感じた。アンケートにもあったように中学生は部活や勉強で忙しいが、その中でも読書の時間を作っていけるように支援していきたいと思った。アンケートで令和3年については部活動が忙しくて読めなかったが0になっているが、補足すると昨年はコロナの関係で部活動が中止になった時期があったので、そういったところが影響したのではないと思う。中学校ではそれぞれ司書がおり、情報交換をして様々な工夫をしている。本校では図書館まつりを生徒主体で開催して盛況だった。普段中々足が向かない生徒でもお祭り好きな子供たちが多く、そういった意味では足を向けてもらうきっかけになったと思う。ここには書いていないが考えていることがある。国語の教科書は5年くらいで改訂されているが、今の1年生の教科書に本のポップを作ってみようというのがあり、10日くらいの期間を与えて書いてもらったところ、思っていた以上に素晴らしい作品ができ、それを授業終了後に返してしまうのがもったいなく、生徒に差し支えなければ貸してもらい、次年度に図書室に掲示して活用していこうと考えている。生徒の振り返りの感想をみると、「自分の好きな本を読んでいるけれど、ほかの人のポップをみると魅力的でこの本を読みたくなった」と多数あったので、そういったところで生徒の気持ちを汲んで活用していけたらいいかと考えている。

松本会長

他にいかがか。なければ、(2)名取市子ども読書活動推進計画に関する取組状況については、原案の通り承認とさせていただきます。

(3)その他

最後に(3)のその他であるが、委員のみなさまがたから直に各現場からの取組について伺い、私が考えているのは(1)にありましたアンケートを毎年定期的にとっていき分析していくというのは重要なことだと思うが、アンケート以外に小中学生の生の意見を聞くという工夫があれば、さらに今後の参考になるのかと思う。それは現場の委員の負担にならないような方法で、生の声を聞く工夫があればと思っているところである。こうした点について、お知恵をお貸しいただければと思うがいかがか。

叶委員

読み聞かせボランティアをされていて、学校によって、保護者の方を入れないで全くのボランティアで行っているところもあれば、保護者の方を含めて読み聞かせをしている学校もある。子供たちの生の声を聞くのに一番いいのは、保護者達から聞けることで、今日読み聞かせあったけどつまらないと言っていたとか、この本が楽しかったとか、親に話すときは作り物ではない話をするので、保護者達から話を聞けるというのも良いのかなと思う。

長内委員

中学生の意見を聞くのであれば、偏りはあるかもしれないが図書委員が各学校にいるので、そういった生徒の意見を聞いてみるというのも一つだと思う。

松本会長

事務局の方では何かあるか。

事務局(菊地)

生涯学習課の方としても、計画を策定したものの現場に行き意見を伺うことができなかった。次年度についても提言にあった取り組みなどを検討しながら、図書館でもボランティアが活躍している現場に行き、そこに来ているお母さん方から意見を聞いたり、イベントを開催しているところに行き、読書に関する事柄をヒアリングさせていただくことなどを考えている。引き続き取り組みをお願いしたい。

松本会長

その他の続きであるが、図書館こどもまつりのお知らせがあるかと思うが、いかがか。

柴崎館長

4月23日から5月12日まで子ども読書週間となっている。4月22日土曜日に増田公民館と図書館の児童コーナーを会場にこどもまつりを開催する。今回の目玉として、尚絅学院大学の安藤先生を招いて、こま回し体験をしたい。こちらの方は申し込みが必要だが、それ以外は自由に参加できるので、たくさんの子供たちに来て欲しい。委員の方からもPRをして欲しい。

松本会長

委員の方から他にいかがか。なければこれをもって議事の一切を終了させていただく。

事務局(佐藤補佐)

令和4年度第1回名取市子ども読書活動推進協議会の終了を宣言。

以上